

特集 ①教会長子弟育成者研修会
②教会おとまり会、教会こども会

《親のことば》

教会に関わる人の心は
変わってはならない

芦津の道は一日にしてなったのではなく、130 年という長い間、皆さん方の先人が、教祖のひながたを慕って、たすけ一条に道を通り、勤めてきたからこそ、今日があるのであります。この先人たちの心を受け継ぎ、その足跡の上に立って、新しく道を伸ばして、少しでも成人の歩みを進め、それと共に、後に続いて歩む人を、責任を持って育てていくことが、皆さん方の役目であると思います。

教会に寄り集まる人の顔ぶれや、教会の建物や場所が変わっても、変わってはならないのは、教会に関わる人の心であります。

(立教 182 年「大教会創立 130 周年記念祭」における

真柱様お言葉より)



できることから**実行を**

4月17日、大教会陽気ホールを会場に「第3回教会長子弟育成者研修会」を開催しました。この研修会のねらいは、山田道弘・大教会育成部長が「育成について思いを持ってくださる方は増えてきたが、それを各教会で実行していくことが今後の課題」と開講あいさつで述べたように、「自分の教会で実行できる、育成活動のヒントを得ること」。研修会では、パネルディスカッションで宗我邦代・吉野川分教会長、榎康紀・芦ノ郷分教会長後継者、藤田典子・芦島鶴分教会長後継者夫人の3氏に登場いただき、今取り組んでいることや、育成について思うところを語っていただきました。ここでは、好評だったパネルディスカッションの内容を要約して掲載します。

●おぢばの学校の有り難さ

宗我さんは、5人の子弟をすべておぢばの学校に進学させたことを中心に話しました。

特に「おぢばの学校ならでは」という点について、「学校の先生や寮の幹事さんたちが、信仰的な思案や行動を促してくださる。例えば病人の添い願いやひのきしんなど、家だけでは仕込めないことを身に付けてくれた」「勉強はどこでもできるけど、信仰はおぢばでしか教えてもらえないし、将来に続くお道の仲間が作れる」といった話が聞かれました。さらに、「親から離れているからこそ、自分ですることが身に付いたし、親の有り難さが分かり、信仰の話ができるようになった」と、これまで小さい頃から言い聞かせてきたことの意味がわかるようになるなど、おぢばの学校でしか学べない点について、詳しく話しました。

また5人全員がようぼくとなり、「大教会長様が巡教の月次祭に、子供たち全員が教会に帰ってきて、おつとめ衣をつけておつとめを勤めてくれたことが、本当に嬉しかった」と、家族で信仰する喜びを語りました。

さらに育成については、「導く側の姿勢が大切」として、三代真柱様がおっしゃった「言葉をかけ、心を掛け、手を引いて育てる」という言葉を紹介し、「子弟の育成については、特につなぎである母親の役割が圧倒的に大きい」と話しました。



子弟は全員おぢばの学校に（於・吉野川分教会）

●お道を通る自信をつけさせたい

榎さんは、まず自身の姉全員が教会に繋がり御用をつとめてくれることと、自身の子育ての中から「教会こども会」を始めたことを中心に語ってもらいました。

3人のお姉さんたちは「教会で生まれたのだから、教会から絶対に離れず、弟の力になって4人で教会を守っていくこと」と、小さい頃から常に言い聞かせられていたそうです。ところが榎さん自身は、親から言われて「学生生徒修養会」には参加しましたが、信仰から逃げようと思っていました。しかし、自身の入院がきっかけで神様に心を向けることができ、今では「信仰から逃げていた時期があったが、こうして今があるのは親のおかげ」と語ります。

さらに、この信仰を我が子に伝えるために、「お



教会こども会は、親子で楽しめる内容を
(於・芦ノ郷分教会)

ぢばや大教会にはできるだけ子供を連れて帰り、『おぢばや大教会は楽しいところ』という思いを心に残してやりたい。この信仰で間違いないという自信をつけさせてやりたい」という思いを話してくれました。

その上で、「子供が仲良しの友達を家に誘ったことで、親子で遊びに来てくれ、初めて教会だということを知ってもらい、参拝もしていただき、ご飯を食べて楽しく過ごしてくれました」ことから、「教会は楽しいところ」ということを親子で感じてもらえたらと、毎月「教会こども会」を実施するようになりました。こども会では、親子が一緒になって楽しめるよう、いろいろな企画で毎月続けているそうで、今では母親だけでなく、父親も揃って参加してくださる家庭もあるそうです。

さらに子供たちの育成については、「まず親である私自身が、親の御用をニコニコ楽しんで勤めること。そして御守護に対し、感謝、お礼の心をしっかり行動に表すことを心がけています」と語ってくれました。

●親々のおかげで今がある

藤田さんは、嫁いできた当初、会長である藤田幸子さんの厳しい仕込みにカルチャーショックを受けたそうです。しかし、それまでの厳しい道中を聞いて、「今の結構があるのは、しんどい中を親々が通ってきたおかげ。子供ができ、親の手が届かないところで守っていただいているのは、親

が積んでくださった徳のおかげだと感じる」と語ります。

藤田さんは、日頃から子供たちに、おふでさきの拝読や、神饌物のお下げ、お風呂掃除などを手分けしてさせ、自分の役割を持たせています。また月次祭の日には子供たちに学校を休ませているのですが、今では友達や学校も認識してくださっているとのこと。

そして長男が小学校に入ってから「教会おとまり会」を始めました。最初は 15 人でしたが、今では年代ごとに 3 つに分けて、それぞれ 40 人ずつ参加するようになりました。その中で、我が子の成長を感じることがあったそうです。「おとまり会を実施することで、子供たちが、人のお世話ができるようになりました。例えば、一人にいる子に声をかけて、一緒に遊べるようにする。ある時、不登校だった子に声をかけ、おとまり会に参加してもらったのですが、みんなと一緒に楽しく過ごすことで、学校に行けるようになりました」というエピソードも聞かれました。

また、「野球の試合に向けて御供をしたり、子供たちなりに神様に向き合ったり、信仰的にものを考える姿を見ると、嬉しくなります」と話してくれました。

そして「親が必死に繋いでくれた大切な信仰、私たちが苦しい中でもしっかり伏せ込んで、子供たちに繋いでいきたい」と決意を語りました。



おとまり会の日には子供たちの靴でいっぱい
(於・芦島鶴分教会)

全教会での実施を目指して

例年、3月末に総会を開催している少年会芦津団。次回の総会は、50 回目という節目を迎えることとなりました。そこで、少年会芦津団は、この総会を「第 50 回記念総会」と位置付け、総会に向けて「全隊（全教会）での教会おとまり会・こども会の実施」を目標に掲げました。

ここでは、意識はありながらも、なかなか実行に踏み切れない「教会おとまり会・こども会」について、実施する意味や、素晴らしさを考えます。

●教会おとまり会の意味

教会は、親神様、教祖を中心に生活をする、信仰の喜びに満ちた「陽気ぐらしの道場」です。

少年会本部が推進している「教会おとまり会」は、子供たちと寝食を共にしながらふれ合うことで、何気ない一言や生活態度の中から自然と信仰心を映していくための活動です。

教会の朝夕のおつとめでは、神様に生かされていることのお礼を込めることや、世界中の人の幸せを願って勤めるような心を伝え、教会の役割や素晴らしさを実感することができます。また食事の準備・片付けや、普段の生活では見落としがちなちょっとした親切などを実践させることで、ひのきしんの態度を身につけることができます。教会に足を運び、泊まることで、教会長や教会に繋がる方々との結びつきができ、教会への親しみが生まれ、教会を身近なものと感じることもできます。

少年会本部が現在、活動の重点項目として、**「教会おとまり会・教会こども会の全隊実施」**を推進しているように、教会活動の中でも大変重要な活動と言えるでしょう。

●教会内容充実の第一歩に

おとまり会を実施するには「子供たちを楽しませる方法がわからない」「教会に子供がいない」など、越えなければならないハードルがいくつか



夕食も教会おとまり会の楽しみの一つ（芦島鶴分教会）

あるため、なかなか実施できないという教会も多いのではないのでしょうか。

しかし、教会で泊まり、食事をする事自体が、子供にとっては「楽しいイベント」となるのです。面白いゲームや特別な企画をしなくても、普段の教会生活を味わってもらうことから始めればいいのです。

ある教会では、外孫2人から教会おとまり会を始めたそうです。最初はその2人だけでしたが、友達を誘うようになり、少しずつ人数が増えてきたそうです。

おとまり会を続け、親身に世話取りをするうちに、子供たちが教会へつながら、将来立派なようぼくへと育っていくことでしょう。こうした少年会活動は、教会を明るく賑やかにします。いわば「教会おとまり会は、教会内容充実への第一歩」とも言えるのです。

●泊まらなくてもいい「教会こども会」

「子供たちを寝かせる場所、寝具がない」「食事の準備やお風呂が大変」という理由で、おとまり会の実施が難しい教会もあるでしょう。

少年会本部が「教会おとまり会」と共に推進している「教会こども会」は、日帰りや半日、数時間というわずかな時間でもできる活動です。基本的なプログラムは、「参拝をする」「神様のお話をする」「楽しませる」という3つがあればいいので、おとまり会よりも取り組みやすい活動と言えるでしょう。

おとまり会をまだ実施していない教会や、宿泊が難しい教会にとっては、まずはこども会が少年会活動の第一歩です。

少年会本部発行の「教会こども会のすすめ」というパンフレットを配りましたので、それを参考に、ぜひとも実施していただきたいと思います。

●記念総会を目指して

来年3月31日に開催予定の芦津団総会は、50回目の「記念総会」としてつとめられます。

この総会に向け少年会芦津団は、「教会おとまり会・教会こども会の全隊実施」を推進しています。加世田洋・少年会芦津団団長は、「すべての教会で、

おとまり会・こども会を実施することで、総会まで、おつとめに親しむ時間を重ねてほしい。そして記念総会では、大勢の子供たちが元気におつとめを勤める姿を、親神様・教祖にご覧いただき、お喜びいただきたい」と語ります。

もちろん、すでにおとまり会・こども会を実施している教会は、おつとめ練習を中心に、更なる内容の充実を目指してください。また、まだ実施していない教会は、それぞれの教会の内容に応じて、まずは実施計画を立てるところから始めてください。

また、上級教会と共に実施している教会は、たとえ年に1度でも、自教会独自での実施を目指しましょう。



日帰りで実施できる教会こども会（芦ノ郷分教会）

芦ノ郷分教会で「木綿の会」開催（7月4日）



若いお母さんたちが子連れで参加しました

婦人会は、7月4日、芦ノ郷分教会で「木綿の会」を開催しました。木綿の会とは、婦人会員の中でも若いお母さんを対象とした会合で、この日は、多くの教会長夫人や後継者夫人が、それぞれ子供連れで参加しました。

まず藤田典子さん（芦島鶴分教会後継者夫人）から、「教会おとまり会」を始めた経緯について話があり、続いて質疑応答。参加者からさまざまな質問があり、藤田さんが具体的に答えました。続いて藤田幸子・芦島鶴分教会よりお話がありました。



8月9日～15日

学生生徒修養会 高校の部

- 場所 本部施設
- 内容 レクチャー、ひのきしん、おてふり・鳴り物練習、グループワーク、感話大会など
※期間中、別席を1席運べる日があります
- 費用 11,000円
(大教会の幣帛料 1,000円を含みます)
- 受講資格 高等学校に在学する者
- 集合 8月9日午前8時30分 芦津詰所



8月15日～16日

教会につながる DAY

- 対象 芦津につながる学生
- 内容 懇親会、レクリエーション（水着を持参してください）
- 集合 8月15日午後2時 芦津詰所集合
- 解散 8月16日午後5時 解散予定



8月23日

夏休みあしつ親子参拝

- 場所 芦津大教会
- 趣旨 親子揃って大教会の月次祭に参拝し、縦の伝道への意識向上を図る
- 少年会員にはおさがりを準備しています。
親子揃ってご参拝ください。



8月24日～25日

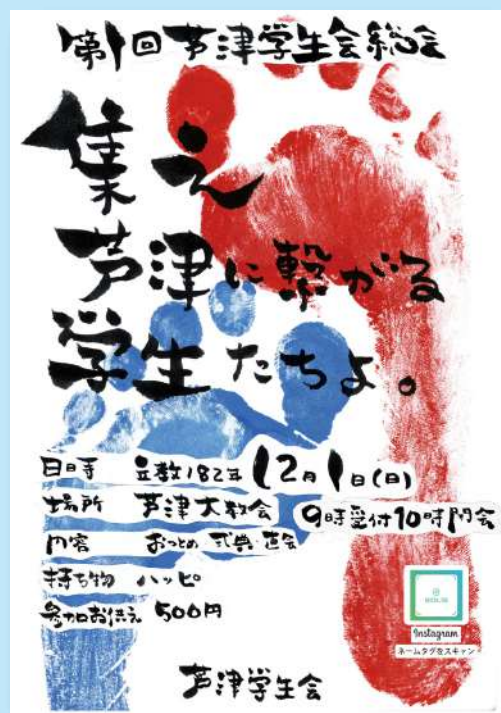
野外練成会 (キャンプ)

- 場所 大阪堺市立日高少年自然の家
- 参加費 1,000円
- 内容 飯ごう炊さん、キャンプファイヤー、海水浴など（水着を持参してください）
- 対象 小学4年生～中学3年生
- 定員 50名（8/20申込締切）

「第1回学生会総会」開催定！

芦津学生会は、今年12月に初めての総会を開催します。高校生、大学生、専門学校生など、芦津につながる大勢の学生の参加を待ちしています！

- 日時 12月1日（日）
午前9時受付 10時開会
- 場所 芦津大教会
- 内容 おつとめ、式典、直会
- 持ち物 ハッピー
- 参加御供 500円



①教会長子弟育成者研修会 ②教会おとまり会、教会こども会

あしつ 育成だより 11

立教182年7月23日発行
編集 / 天理教芦津大教会育成部